

分野別評価報告書

対象分野名	腫瘍制御(源 利成教授) 分野
評価委員氏名	今井 浩三 印
評価委員所属・職	札幌医科大学・学長
評価実施日	平成20年 9月 10日

1. 研究活動の評価 (a.研究の方向性、b.独自性、c.進捗状況(研究発表状況)、d.国際的な位置づけ、e.将来の貢献、f.資金獲得状況、g.その他)

a. 研究の方向性

Wnt がん化シグナルに関係する各種の分子を解析し、この中からいくつかの知見を得ており、評価できる。特に、GSK3 beta が、癌促進的に働く可能性を見出しており、今後この点が詳細に解析され、確認されれば、腫瘍制御の標的分子として期待が持たれる。さらに、チミジル酸合成酵素(TS)を標的にした siRNA 戦略が准教授を中心に進められているが、この方面も競争が激しいと思われるので、特許戦略を十分に考慮して研究を進める必要がある。

b. 独自性

これまで GSK3 beta は、beta-カテニンをリン酸化して分解されやすくする作用のあることが知られていたため、GSK3 beta にそれとは別の作用のあることは、独自の知見であり、興味深い。問題はこの二つの機能がどのような場面で、どのように制御を受けているかを明らかにしつつ、治療応用を考える必要がある。

TS を標的にした siRNA 戦略に新規性があるかは、特許を含めて十分な調査が必要である。

c. 進捗状況(研究発表状況)

これまで順調に進んでいる。研究員が少ない中で、効率よく論文がでており、発表もタイムリーに行われている。

d. 国際的な位置づけ

重要なシグナル経路であるので競争も激しいが、国際共同研究で CRD-BP が大腸がんの増殖に関係することを見出すなど、活発に展開されている。GSK3 beta の国際的な位置づけは今後の課題であるが、国際特許を出願している点は評価される。

e. 将来の貢献

全体として、将来性のある研究をすすめている。治療研究などは、橋渡し研究に絞って、早めに進める必要がある。TS を標的にした siRNA 研究やエビジェネティックスなどの研究は、必要に応じて共同研究を考慮に入れると展開が速い。

f. 資金獲得状況

文科省科学研究費（基盤研究、特定研究）、大学資金などをコンスタントに得ており、努力がうかがえる。これにより大学院生も多数ではないが常時在籍し、学位を取得しているものもある。

g. その他

外国人大学院生を育成している。

2. その他の活動で、評価すべきことがあれば記載してください。

マスメディアを活用して研究成果を社会に公表しており、評価できる。

国内および国際特許をタイムリーに出願している点は、今後の研究の実用化の面でも重要であり、評価できる。

3. 改善すべき問題点

もう少し多数の研究者が集まる仕組み作りが必要である。この点は、組織機構の問題でもあるが、その点の資料がないので今回は評価できない。

4. 将来に対する指針など

本研究部門の位置づけや組織機構、人員配置、他の部門などとの整合性も考慮して考えるべきであるが、本分野は着実に発展している。今後の大きな飛躍のためには、評価による研究費、人事の変更が必要と思われる。